

岡本 和彦

東京大学大学院工学系研究科 助手

## 寝たきり防止に向けての、自主排泄環境整備

研究の背景と目的：高齢者の自立生活維持に関して、排泄面からアプローチ/考察した研究事例は少ない。福祉/介護予算の緊縮に伴う施設サービスの削減と在宅支援の増加傾向に備え、これまでの過保護/重装備に傾きつつあった高齢者介護環境に変革をもたらすきっかけとして、自立排泄の回復/獲得による、高齢者自身の自立意欲向上を目指したい。

そのために、自立排泄を補佐する住宅改修手法や在宅生活における基本与件を提示することを目標として、心理的側面、身体的側面、空間的側面から高齢者の排泄環境を調査し、最終的に高齢者の身体レベルに応じた自立排泄環境モデルを具体的に提案する。調査手法：既存資料を分析した上で、医療従事者（看護師、作業療法士、訪問リハスタッフ、相談医）に対するヒアリングと、各種施設（大学付属病院、回復期リハ病院、緩和ケア病棟、特別養護老人ホーム、老人保健施設、診療所）における排泄環境の現況調査を実施した。

調査結果：高齢者にとって食事と排泄は、自立してできないと生の尊厳と意欲を失うきっかけとなる可能性が高く、まず周囲の人間がそのことを認識することが重要であることがわかった。一方、施設でよく見られるカテーテルの設置による自立排泄の機会の喪失は、多くが施設側の都合で行われており、おむつやパッドによるトレーニング、スタッフの認識の改善、トイレの設置の工夫などにより、多くの高齢者のカテーテルを取ることが可能であることが分かった。これらの結果を踏まえ、具体的提案として高齢者の状態に併せた排泄ケアツールを提示し、自立排泄に向けて段階的にツールを変化させることを提案した。同時に、自立排泄を促す建築的環境を、病院/施設篇と住宅篇に分けて図示した。